

ハイハイプロジェクト実施報告書

- 1 実施日 平成27年1月13日(火)、14日(水)
- 2 実施団体 宮城県東部保健福祉事務所(石巻保健所)
- 3 実施場所、参加状況等

日	時間	場 所	内 容	人数
1/13	9 : 30 ~ 11 : 30	宮城県石巻合同庁舎	乳幼児運動発達支援研修会 (10月、12月の研修と同内容)	7人
1/13	13 : 00 ~ 15 : 00			8人
1/14	10 : 30 ~ 11 : 30	石巻市開成第一仮設 集会所(アリエッテ ィのひろば)	発達を促す関わり、体を使った遊び の体験(親子・母子保健関係者)	大11人 小18人

- 4 冊子配布 「ハイハイのすすめ」 26部
- 5 研修会アンケート結果 別添のとおり
- 6 実施内容

① 研修会(10月、12月と同内容)

今回も10月、12月に行った研修会と同じ内容で専門職(保健師、保育士)対象に実施。

② 発達を促す関わり、体を使った遊びの体験(石巻市開成第一仮設集会所)

多くの仮設住宅にある集会施設では、高齢者がほとんど使っていて乳幼児が使えるところが非常に少ない中、ここの集会施設は、自治会長さんが子ども達のために積極的に施設を使えるように配慮しているところです。

子ども達を見ている方も保育士などではなくボランティアで従事している方々でした。

保健所とともにハイハイ講師が来るということで、いつもより多くの親子が集まってくれたそうです。

○赤ちゃんの運動発達、ハイハイの大切さなど保護者にミニ講話

○乳幼児の運動、親子体操

4か月児から4歳児までいたので、赤ちゃんには発達を促す体操、幼児は保護者と一緒に運動遊びを行った。

○ハイハイ相談

個別の相談、指導の実施。

○ママの体操

骨盤体操、胸を開く体操などを行った。(頑張っているママたちが笑顔でいるために)

【所感】

○研修会

今回も専門職の方が真剣に聞いて下さった。

それぞれの現場で、日頃困っている現状や子ども達を思い浮かべてもらいお話しをしたこともあり、今の置かれている状況の中で何ができるかのヒントを得てくれたと思う。(アンケート参照)

・震災後の子ども達の様子（保育士からの話）

仮設住宅で赤ちゃんが泣くと迷惑がかかると思い、家では赤ちゃんを泣かせないようにして育児を行っている。その結果、保育園に行った時に自分の思うようにならないため保育士が大変困っている状況を言われていた。家では子どものいいようにしているため、非常にいい子（泣かない、やんちゃを言わないなど）である。

この子たちが大きくなり、社会の中でどんな行動をとるのだろうか？と思うと非常に心配になる。あらゆる感覚や行動、食育など9歳くらいまでに出来上がると言われている。「三つ子の魂百まで」と言われるが、この時期の環境が大人になってからも影響すると思うと今何をしなければならぬか？

ヒトが人として成長するために、乳幼児期に思いきり体を動かして遊べる環境整備が望まれる。

高齢者の孤独死や生活不活発病が取り上げられているが、今この問題（子ども達の現状）に警鐘を鳴らしていくことが急務であると感じた。

○発達を促す関わり、体を使った遊びの体験

赤ちゃんが行う運動の全てに意味があり必要であることや、やり直しができること等のお話しを真剣に聞いてくれた。

保健所や支援センターへ行くには遠いけど、近くの集会場などへ専門職が来てくれることで、日頃不安に思っていることなど気軽に相談、確認できることが非常に嬉しいと言っていた。また、ここでもママたちの体操は好評で、日頃頑張っているママたちが笑顔になる支援も大切だと感じた。

いつも現場では、短時間での指導や相談のため、私が言いっ放しになってしまう恐れがあります。ママたちを不安にさせてしまうことがないように、その後のフォローが大切になりますが、そのフォローを石巻保健所の担当保健師さんが担ってくれていることに感謝です。

地域の窓口の方は、我々指導者と現場を繋ぐ大変重要な役割です。今後も連携していくためにコミュニケーションを取りながら進めていきたいと思えます。

平成 27 年 1 月 23 日

報告者 樋口和子